

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所長

令和 8 年度農作物病害虫発生予察情報について

令和 8 年度農作物病害虫発生予報第 4 号を発表したので送付します。

---

令和 8 年度農作物病害虫発生予報第 4 号

令和 8 年 6 月 19 日  
徳 島 県

## I. 普通作物

### 早期水稲

いもち病(葉いもち)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 6月11～15日に行った巡回調査では、発生圃場率が5.6%、発病度が0.2と、平年(2.2%、0.0)に比べてやや高い。

(2) 高松地方气象台によると、今年は6月2日に四国地方の梅雨入りが発表された。

また6月18日に発表された1か月予報では、気温はほぼ平年並であるが、期間の後半は平年並か高く、降水量と日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 早期発見に努め、発生を認めたら防除を行う。

紋枯病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 6月11～15日に行った巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が0.5%、発病株率が0.0%)。

(2) 高松地方气象台によると、今年は6月2日に四国地方の梅雨入りが発表された。

また6月18日に発表された1か月予報では、気温はほぼ平年並であるが、期間の後半は平年並か高く、降水量と日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 今後の発生に十分注意し、基幹防除を励行する。

セジロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 6月11～15日に行った巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が4.9%、株当たり虫数が0.0頭)。
  - (2) 高松地方気象台によると、今年は6月2日に四国地方の梅雨入りが発表された。  
また6月18日に発表された1か月予報では、気温はほぼ平年並であるが、期間の後半は平年並か高く、降水量と日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
- (1) 発生予察情報、ほ場の見回り等に基づき、適期の薬剤散布等を実施する。

## 普通期水稻

いもち病(葉いもち)

- 1) 予報内容  
発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
  - (1) 6月11～15日に行った巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が1.3%、発病度が0.0)。
  - (2) 高松地方気象台によると、今年は6月2日に四国地方の梅雨入りが発表された。  
また6月18日に発表された1か月予報では、気温はほぼ平年並であるが、期間の後半は平年並か高く、降水量と日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
  - (1) 補植用置き苗は、葉いもちの発生源になるので、補植が終わり次第速やかに処分する。
  - (2) 早期発見に努め、発生を認めたら防除を行う。

セジロウンカ

- 1) 予報内容  
発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
  - (1) 6月11～15日に行った巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が0.7%、株当たり虫数が0.0頭)。
  - (2) 高松地方気象台によると、今年は6月2日に四国地方の梅雨入りが発表された。  
また6月18日に発表された1か月予報では、気温はほぼ平年並であるが、期間の後半は平年並か高く、降水量と日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
  - (1) 発生予察情報、ほ場の見回り等に基づき、適期の薬剤散布等を実施する。

## サツマイモ

シロイチモジヨトウ(令和8年6月5日付けで注意報発令)

- 1) 予報内容  
発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「中」
- 2) 予報の根拠
  - (1) 6月1～10日におけるフェロモントラップへの誘殺虫数は581頭と、平年(91頭)の約6.4倍誘殺されたが、10～15日における誘殺虫数は93頭と、平年(86頭)並となった(図1)。
  - (2) 高松地方気象台によると、今年は6月2日に四国地方の梅雨入りが発表された。  
また6月18日に発表された1か月予報では、気温はほぼ平年並であるが、期間の後半は平年並か高く、降水量と日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
  - (1) 多発すると防除が困難になるので、若齢幼虫期に徹底防除を図る。

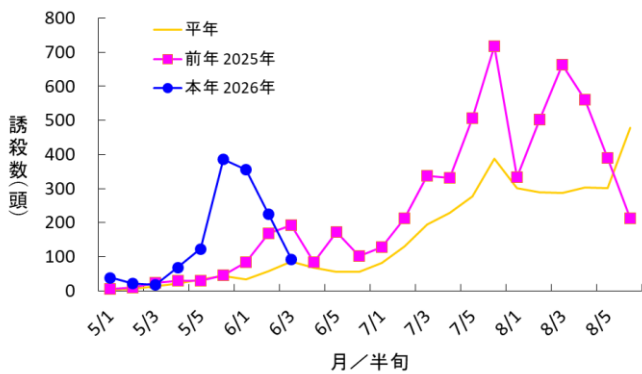


図1 シロイチモジヨトウフェロモントラップ誘殺数推移(サツマイモ圃場)  
\* 徳島市、鳴門市、松茂町の4地点平均

## II. 果樹 カンキツ

かいよう病(スダチ)

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 6月11～15日に行った巡回調査では、発生圃場率が75.0%、発病度が1.3と、平年(81.0%、2.1)並の発生である。
- (2) 高松地方气象台によると、今年は6月2日に四国地方の梅雨入りが発表された。  
また6月18日に発表された1か月予報では、気温はほぼ平年並であるが、期間の後半は平年並か高く、降水量と日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 常発園では必ず防除を行う。
- (2) ミカンハモグリガ等の害虫の食害痕は本病原菌が侵入しやすいので、ミカンハモグリガ等の防除に努める。
- (3) 風当たりの強い園では防風対策を講じる。

ミカンハダニ

### 1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 6月11～15日に行った巡回調査では、発生圃場率が18.8%、寄生葉率が0.9%と、平年(57.9%、7.2%)に比べて低い。
- (2) 高松地方气象台によると、今年は6月2日に四国地方の梅雨入りが発表された。  
また6月18日に発表された1か月予報では、気温はほぼ平年並であるが、期間の後半は平年並か高く、降水量と日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏まで十分な量の薬液が付着するよう丁寧に散布する。
- (3) ミカンハダニは薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の連用は避ける。

ナシ

黒星病

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

## 2) 予報の根拠

- (1) 6月11～15日に行った巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が2.5%、発病葉率が0.1%、発病果率が0.0%)。
- (2) 高松地方気象台によると、今年は6月2日に四国地方の梅雨入りが発表された。  
また6月18日に発表された1か月予報では、気温はほぼ平年並であるが、期間の後半は平年並か高く、降水量と日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

## 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 降雨が多いと被害が拡大するため、予防的な薬剤防除を行う。

## ハダニ類

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年より少ない)で、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 6月11～15日に行った巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が2.5%、寄生葉率が0.1%)。
- (2) 高松地方気象台によると、今年は6月2日に四国地方の梅雨入りが発表された。  
また6月18日に発表された1か月予報では、気温はほぼ平年並であるが、期間の後半は平年並か高く、降水量と日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏や徒長枝にも十分な量の薬液が付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

## 果樹共通

### 果樹カメムシ類(令和8年5月13日付けで注意報発令)

### 1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「多」

### 2) 予報の根拠

- (1) 5月1日～6月15日における予察灯調査において、勝浦町では、ツヤアオカメムシが1,798頭と、平年(327頭)の5.5倍、チャバネアオカメムシが1,291頭と、平年(121頭)の10.7倍誘殺された。また、上板町では、ツヤアオカメムシは946頭と、平年(220頭)の4.3倍、チャバネアオカメムシは837頭と、平年(71頭)の11.8倍誘殺された(表1)。
- (2) 高松地方気象台によると、今年は6月2日に四国地方の梅雨入りが発表された。  
また6月18日に発表された1か月予報では、気温はほぼ平年並であるが、期間の後半は平年並か高く、降水量と日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の山林や雑木林から成虫が飛来してくるので、園内を巡回し、飛来を確認したら早急に防除を行う。
- (2) 夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。
- (3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

表1 予察灯への各種カメムシ類の誘殺数

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月	半旬	勝浦町			上板町		
		2026年	2025年	平年	2026年	2025年	平年
5	1	109	1	25	154	2	31
	2	131	0	17	90	1	31
	3	220	0	42	140	1	44
	4	461	0	68	205	2	38
	5	340	0	32	184	0	18
	6	162	0	32	99	0	28
6	1	139	0	28	48	1	9
	2	81	0	57	2	0	11
	3	155	5	26	24	1	11

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月	半旬	勝浦町			上板町		
		2026年	2025年	平年	2026年	2025年	平年
5	1	96	0	8	50	9	7
	2	129	0	7	209	0	5
	3	170	1	21	117	1	10
	4	234	1	23	122	8	10
	5	338	0	26	98	0	11
	6	174	0	18	189	0	13
6	1	101	0	6	9	1	3
	2	18	0	7	39	0	6
	3	32	2	6	4	6	5

## 野菜共通

シロイチモジヨトウ (令和8年6月5日付けで注意報発令)

### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「中」

### 2) 予報の根拠

(1) 6月1～10日におけるフェロモントラップへの誘殺虫数は321頭と、平年(56頭)の約5.7倍誘殺されたが、10～15日における誘殺虫数は37頭と、平年(40頭)並となった(図2)。

(2) 高松地方気象台によると、今年は6月2日に四国地方の梅雨入りが発表された。

また6月18日に発表された1か月予報では、気温はほぼ平年並であるが、期間の後半は平年並か高く、降水量と日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行う。

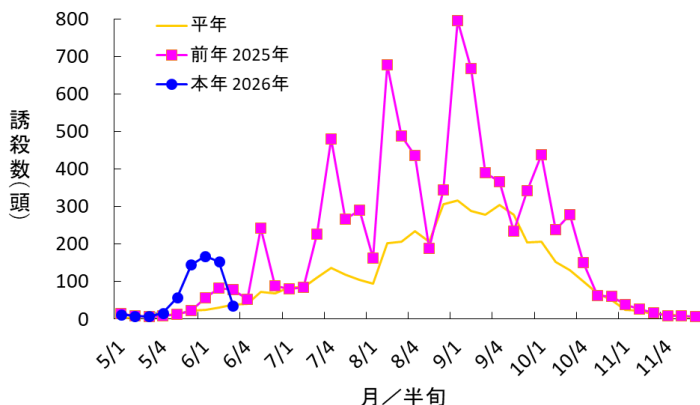


図2 シロイチモジヨトウフェロモントラップ誘殺数推移(野菜圃場)  
\* 徳島市、石井町、阿波市、吉野川市の7地点平均

## IV. その他

- 1) 薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。
- 2) 水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水する。

### 発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所

URL: <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○ 病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。